

時事解説

◇昭和23年7月8日 第3種郵便物認可◇昭和53年1月24日 国鉄首都特別扱承認新聞紙第519号◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)◇発行所 東京都千代田区日比谷公園1番3号 時事通信社 電話(03)591-1111◇郵便番号100 〇時事通信社1979

時事通信

難民潮



いったいどこまで流出がつづくのだろうか。民族の「解放」を成し遂げたはずのベトナムから、すでに五十万以上の難民が流出しているが、ベトナム南部には、まだ百万から百二十万と推定される

「難民予備軍」が存在するという。難民問題にたいし、中国の韓念竜外務次官は去る七月五日の中越次官級会談で「ヒトラーのユダヤ人迫害に匹敵する残虐行為」と激しく非難したが、ラオス、カンボジアからの脱出者を含む難民のほとんど大部分が実は中国人・華僑であるところに今日の問題のカギがある。つまりベトナム難民といい、「ポート・ピブル」というが、それはいずれも中国人の難民潮なのだ。ベトナム側からすれば、ただでさえやっかいな存在である華僑は、いまや中越関係に照らして、いつ北京の「第五列」となるかもしれない。『穀つぶし』以外のなにものでもない。漂流難民を洋上に押し返しているマレーシアにしても、全人口の四〇%を占める華人の存在がこの国の国民形成にとって大問題であり、しばしば人種異動さえ体験し

てきただけに、もう我慢ができなくなりました。

それでは、これらの難民を中国が受け入れたらどうか。歴史的に見ても、華僑は中国大陸から流出したのであるから、中国が収容すればよいのではないか。だが、実際、これらの難民は、「祖国」中国大陸へ戻ろうとはけっして希望しない。それに去る六月、イギリス船が黄埔に運んだ四十人のベトナム難民の受け入れを中国は拒否し、この船はやむなく香港へ難民を運んだ。

その香港は、あの小さな土地に人口があふれているが、すでに五万三千人の難民を受け入れている。そこへもってきて驚くなかれ、このところ香港へは中国大陸からの入境者が急激に増大しているのである。香港政府によると、去る五月だけで不法入境者(つまり難民)が一万四千人、これに合法的入境者が四千人、この一月からの半年の間に合計十万人もの大陸からの入境者があった。この調子だと中国の「開放政策」のおかげで来年中に香港の人口は五十万人も増え、総人口

の約一〇%がわずか一年で膨れ上がることになり、香港への難民問題がかつての一九六二年の難民潮に次いで新たに問題化しようとしているのである。一九六二年の難民潮のときは、中国側の政策もあって、一日一万人近くが殺到したこともあり、やがて香港政府は、これらの大陸難民を強制的に送り返したけれど、今日に至るまで大陸難民は後を絶たない。

そもそも、これらの難民問題はすべて中国人問題なのであって、ある意味では前世紀中葉のアヘン戦争そして各国の奴隷解放直後のアメリカやオーストラリアのゴールドラッシュによる「苦力」流出、さらにさかのぼって王朝末期の動乱ごとの大群の棄民たち、そして四世紀の永嘉の乱や九世紀の黄巢の乱以来、中原の地から華南へ、そして南洋社会へと移動した客家の存在など(これらがいずれも華僑のルーツである)を考えると、漢民族における流民、棄民、流賊の歴史はまさに縮々たるものがある。(中嶋嶺雄)

内容	
ASEAN、ベトナムを非難……………2	
難民を契機に新たな協調の機運	
ウラジオに配属された「ミンスク」…7	
日本人の生涯教育を考える(下)……………13	
景気後退に突入した米経済……………17	